

## 第 8 期

# 札幌市廃棄物減量等推進審議会（第 5 回）

## 議 事 録

日 時：平成 28 年 7 月 27 日（水）午前 10 時開会  
場 所：札幌市役所本庁舎 12 階 3～5 号会議室

## 1. 開 会

○福士会長 まだ来られていない委員がいらっしゃいますが、定刻になりましたので、ただいまから、第8期札幌市廃棄物減量等推進審議会の第5回本会議を開催させていただきます。

本日は、ご多忙の中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の会議につきましては、11時30分ごろを終了予定としておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、事務局から、本日の出席状況と配付資料の確認をお願いいたします。

○事務局（高橋企画係長） 皆様、おはようございます。

札幌市環境局循環型社会推進課の高橋でございます。

本日は、ご審議をよろしくをお願いいたします。

出席状況の前に、皆様に1つご報告がございます。

委員の退任についてでございますが、北海道新聞社の渡辺委員が会社内の人事異動の都合で7月1日付で委員を退任されております。後任の選出はございませんので、今後、本審議会の委員数は13名となります。皆様、ご承知おきいただければと思います。

続きまして、出席状況ですが、本日は赤城委員と草野委員が所用により欠席となっております。また、福士会長からもお話がありましたけれども、木澤委員が20分ほど、山本委員が10分ほど遅れるというご連絡をいただいております。両名はご出席の予定となっておりますので、本日は13名中11名の委員にご出席いただいております。出席委員が過半数を超えておりますので、札幌市廃棄物の減量及び処理に関する条例施行規則第5条第1項の規定に基づき、この会議が成立していることをご報告させていただきます。

続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

本日、お手元には5つの資料をご用意しております、1つ目が次第です。それから、2つ目が委員名簿ですが、渡辺委員退任後の委員名簿として改めて配付させていただいております。3つ目は、次期計画検討における重点テーマの（案）というA3判の資料です。また、国の関係資料ということで、3枚ほど抜粋で入っております。また、最後に、今年度の食品ロスキャンペーンということで、赤い表紙のパンフレットも配付させていただいておりますので、後ほどご覧ください。

資料は以上の5点ですが、皆様のお手元にごございますでしょうか。

それでは福士会長、審議会の議事進行をよろしくをお願いいたします。

## 2. 議 事

○福士会長 本日は第5回目の本会議になります。前回の本会議では、次期計画の方向性を検討する際の重点テーマについて、皆様から有意義なご意見、ご質問を頂戴しました。どうもありがとうございます。今回は、前回の議論を踏まえまして、今後予定している9月以降のグループ会議で話し合う重点テーマについて、引き続き審議していただいて、

2つのテーマについて決定したいと思います。

それでは、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 皆様、おはようございます。

循環型社会推進課長の山岡でございます。

それでは、私から、お手元に配付した資料を説明させていただきます。

資料は、A3判のカラー刷り、タイトルが次期計画検討における重点テーマ（案）についてというものです。

こちらの資料は、前回の本会議でご審議いただいた内容をもとに、9月以降に予定しておりますグループ会議の重点テーマを2つに選定したのとなっております。

2つのテーマを選定するに当たりまして、これまで委員の皆様から頂いた意見を踏まえまして、札幌市や国の計画の内容、方向性との関係において、そのテーマがどのように位置づけられるものであるのか、その整合に留意して改めて整理をさせていただいた内容となっております。

資料の上段は、札幌市と国の計画でありまして、これにつきましては、第1回、第2回の本会議でも触れたところではありますが、今回、テーマ選定とのつながりを確認させていただくため、改めてその説明から入らせていただきたいと思います。

まず、資料の上段の左側の青色の部分は、札幌市のまちづくり戦略ビジョンの内容について記載しています。まちづくり戦略ビジョンは、平成25年2月に策定したもので、札幌市が目指す都市像や基本目標についてまとめた10年間の上位計画になります。

その中で、資源やエネルギーの有効活用を目指し、一番左側に記載しているとおり、ごみの減量、リサイクル、再利用が積極的に行われる資源循環型の社会を将来のまちの姿として描いております。

その右側ですが、平成25年10月にビジョン編を受けて戦略編を策定しております。

戦略編では、主に行政が優先的、集中的に実施する取組をまとめたもので、具体的な内容を4つほど書いております。

1つ目が生ごみの減量や事業者の古紙回収など、市民や事業者の自主的な取組の推進、2つ目が焼却灰や廃棄物系バイオマスなどの資源化の促進、3つ目が清掃工場でのより効率的なエネルギー回収による発電や熱利用の推進、4つ目が近隣市町村との広域処理に向けた協力体制の充実を挙げております。ここまでが札幌市のまちづくり戦略ビジョンの概要でございます。

次に、右側で、緑色で示しておりますけれども、こちらは国の計画になります。

国の計画の1つが第3次循環型社会形成推進基本計画、もう1つは廃棄物処理基本方針でして、それぞれの内容をコンパクトにまとめたものでございます。

まず、平成25年5月に閣議決定されました第3次循環型社会形成推進基本計画において、国内における取組としまして、これまでの資源循環の量に着目したリサイクルに加えて、資源化の際の環境負荷にも配慮するなど、質にも着目したリサイクルの取組やリデュース、

リユースという2Rの取組を推進することとしております。

また、バイオマス資源のエネルギー源への利用に向けた取組、また、廃棄物の発生・排出抑制や適正処理だけでなく、資源となるものについて、循環的な利用の促進や適正な処分に係る内容も含めまして、循環型社会を推進する計画となっております。

次に、一番右側の廃棄物処理基本方針でございます。

この基本方針は、廃棄物処理法に基づきまして、廃棄物の排出抑制や再生利用等による減量、その他適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための方針を定めたもので、今年の1月に示されたものでございます。

基本的事項としましては、それぞれの役割として、まず、国民は3Rを意識した行動に努めること。事業者は、生産者責任のもと、適正処理に努めること、そして、地方公共団体の役割としましては、普及啓発や環境教育等により、住民の自主的な取組を推進するとともに、一般廃棄物の適正な循環利用、適正処理を行うことなどが示されております。

また、処理施設の整備に関する事項につきましては、効率的なバイオマスの利活用やエネルギー回収、施設の長寿命化等が示されておりました、こうした内容につきましては、平成25年5月に国で策定した廃棄物処理施設整備計画の内容を踏まえたものとなっております。

これら国の計画につきましては、本日、概要版として、それぞれ1枚ずつにまとめた資料をお手元にお配りしましたので、後ほどお時間のあるときにご確認いただければと思います。

こうした札幌市や国の関連計画の内容や方向性から、札幌市の次期一般廃棄物処理計画の方向性を検討する際の重点テーマを決めるに当たり、まちづくり戦略ビジョンにおきまして、市民、企業、地域、行政が一丸となつてごみの減量、リサイクルを引き続き進める必要があること、これを重要な視点と位置づけておりました、資料中段に紫色で横長に書いておりますが、市民、事業者、行政が一体となつて取り組む観点から2つの大きなテーマに整理をさせていただきました。

ご覧のとおり、そのテーマは、ごみを出さない取組としての2Rと、ごみをリサイクルする取組としての資源化という2つを選定いたしました。

次に、この2つのテーマについて、実際にグループ会議で何を検討するのかということですが、3番目の重点テーマの検討内容をご覧いただきたいと思っております。

まず、オレンジ色の2Rグループについてでございます。

事業ごみや容器包装プラスチックなどの資源物は、家庭から出る廃棄ごみ量に比べて減量がなかなか進んでいない現状がございまして、これらのごみの減量を推進する必要があります。また、高齢化の進行によりまして、生前整理あるいは遺品整理などへの対応を含めまして、リサイクルよりも優先されるリデュース、リユースの2Rの取組の推進が課題となります。

さらに、廃棄ごみのうち多くを占める生ごみにつきましては、家庭ごみ、事業ごみとも

に、食品ロスの削減に向けた取組が重要になってきます。出たごみをどのように分別、処理するかではなく、まずはごみを出さないという上流での取組を進めることが一番効果的であることから、2Rを推進するための方策等について議論をしていただきたいと考えております。

2つ目の資源化グループでございます。

2Rの取組を進めても、ごみは家庭や事業者からどうしても発生するわけですから、排出されるごみの中で、次に資源となるものをリサイクルし、焼却、埋め立てする量を減らす取組ということが循環型社会を進めていく上で重要になります。

リサイクルにつきましては、2Rと比べると、既に取り組んでいるところが多いと思いますが、焼却、埋め立てをされる家庭ごみ、事業ごみの中には、まだまだ資源化できるものが多く含まれているのが現状でして、こうした資源物の分別、適正排出が引き続きの課題となります。

小型家電や容器包装プラスチック、雑がみなどの家庭ごみの分別排出を促進することや、事業系のごみにつきましても、紙類などの分別が進むことで、焼却、埋め立てするごみの減少につながります。こうした状況から、市民や事業者の分別、リサイクルを定着するための取組等について議論していただきたいと考えております。

右側には検討項目を例示しておりますけれども、上下にまたがる形で点線で書いている普及啓発やコストの側面、民間事業者との連携という視点を踏まえて検討していただければと思います。

また、2つのテーマにつきましても、実際のグループ会議に入る際には、事務局から議論の材料となるデータ、例えば、他都市の状況など資料を整理させていただいて、提供をしていきたいと思っております。

A3判の資料の説明は以上になりますけれども、事務局から、改めて次期計画の性格などの考え方を再度お伝えして、委員の皆様の共通認識のもと、今後、グループでの議論に入っていただければと思います。

というのは、平成30年度からの新たな計画をつくっていくわけですが、前回の本会議で、今の計画を大きく変える中身になるのか、簡単に言えば、フルモデルチェンジを目指すのか、現計画を踏襲したものを考えるのか、その方向性について確認があったところです。事務局としましては、現計画の基本目標である環境低負荷型資源循環型社会の実現や、環境、経済、社会という3つの視点を考慮した基本方針などは、先ほど説明しました国の計画や札幌市のビジョンの方向性に合致したものであり、計画の枠組みを大きく変更する必要があるとは考えておりません。

実際に、現在の改定計画は、平成26年3月に改定してまだ3年目でもありますし、そこで掲げている取組については、総体としては順調に進んでいるという認識にありまして、効果が出ているものは継続していく、ある程度の水準に達したものは、その水準を維持、持続し、まだ進められる余地があるものは、その取組を強化するという内容の計画をイメ

ージしているところです。

委員の皆様には、全く新しい計画をつくり上げるということではなくて、今、申し上げた観点から、ぜひご議論をしていただければというふうに考えております。

私からの説明は以上になります。どうぞよろしく願いいたします。

○福士会長 どうもありがとうございました。

前回の議論に基づいて、重点テーマとしては、ごみを出さないという2Rと、ごみが出た後に資源化するという2つに分けていただきました。

また、改定計画をつくるときに、全く新しい体系を考えるのかどうかについて、事務局の考えとしては、前の計画を尊重しながら、特に新しい知見といいますか、国の動きなどをつけ加えていくということです。

基本目標としては、現計画は環境低負荷型資源循環型社会ということで、国の循環型社会形成推進基本法の循環型社会という方向とも合致するものです。実は、前の計画はさっぽろごみプラン21というものでしたが、そのときも基本目標自体は一緒でした。

ただ、基本方針については変わっておりまして、1つは、環境ということで、まさに循環型社会をつくる部分と、経済ということで、効率性といいますか、コストを低く抑えて施策、事業を達成するということです。また、社会ということで、協働という基本方針でやっていく、そこは議論があると思いますけれども、基本的にはそれを押さえた形で行っていくというご説明だったと思います。

以上の説明につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○石井委員 細かいことはまた後で言うことにして、今の国の基本方針の件ですけれども、一番変わったのは、強靱化といいますか、前にはなかった災害という点を少し色濃く出していかなければならないと思います。

そのときに、大きな枠組みとか、キャッチフレーズは、コンセプト的にはそれほど大きくは変わらないと思います。安全・安心という言葉をどういうふうに入れるかということぐらいだとは思いますが、廃棄物処理計画が災害とか、強靱化などに目を向いているという視点を前よりも少し色濃く出していくような基本方針が必要ではないかと思いました。

○福士会長 東日本大震災以降、安全・安心という価値がかなり高くなって、国の計画でもそういう価値を取り入れるようになったということだと思います。

それから、最近では災害が多いため、それに国土強靱化というのが全体的な流れの中であって、それに対して廃棄物の方でも、施設については、災害に対して強く、平時から災害時まで、切れ目なく対応できるような形で考えていく、そういうことも求められていると思います。

ほかに何か意見はございますか。

○河崎委員 確認ですが、2つのグループ分けというのは、重点テーマのグループ分けにしたいという意味ですか。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） はい。

○河崎委員 それから、災害については、私も言おうかと思っていたところ、石井委員から言われましたが、これは同感です。

ただ、どの程度触れるかという問題があります。これは、今の時期にあわせて考えるべきではないかと思います。それから、検討項目で細かくなって恐縮ですが、この2つのグループで共通する事項として、普及啓発とコスト、それから民間事業者との連携とあります。コストというのは、ほかの触れ方と異質だと思いますし、効率性とか経済性とかいろいろ言われると思うのですけれども、その辺の考え方をもう少し教えていただければと思います。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 2つのグループで共通する視点として、ここに普及啓発と民間事業者との連携、もう1つはコストと書いてありますが、コストのイメージというお話だと思います。

どんな取組をするにもお金がかかるとすれば、費用対効果や実際に幾らぐらいのお金がかかって、それが実現できるのかという視点から考えていく必要があるという意味で、3つの視点ということで記載しております。

ですから、実際にどういう議論になっていくかによって、コストをどの程度意識しなければならないかというのは、その議論の進み具合によって変わってくると思っています。

○河崎委員 わかりました。

○福士会長 コストの問題は、経済という形で基本方針の中にずっと入っていたわけですが、石井委員がご指摘されたように、実際の施策や事業をやるときに、これまで、どのくらいお金がかかっているのかということはそんなに深く議論をしてこなかったと思います。

今後、そういうことも議論する必要があるのか、あるいはコストについて、どういう形で考えていくのかということについても意識しながら議論をしていただくことが今後は必要ではないかということだと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○石井委員 重点テーマはこれでいいと思います。2つに分けていただいてありがとうございました。

これから重点テーマで分かれていく中で、方向性をつくるということで、2点ほど確認したいのですが、まず、今回つくる廃棄物処理計画の総体があって、大きく2Rと資源化を特に重点的にやるだけであって、これが全てではないという基本認識でいます。まず、これについて基本的な方向性を示すということですね。本来、こういう計画の中に書かなければいけないことはほかにもいろいろあるわけですから、そういうものはその後にも議論をするという認識で、今回は特にここにフォーカスするということですね。これがまず1点です。

それでは、この重点テーマの検討内容が今度は計画にどう反映されるのかというところ

が大事になってくると思います。例えば、基本方針を大きく変えるものでないにしても、その下にある取組の指標とか目標が、今まで順調にいったものと、これからもちょっと頑張らなければいけないものについて、当然、ウォッチしていくのですけれども、新たな指標も必要なのではないか、こういった指標があった方が2Rはもっと図れるのではないか、資源化に関してもこういった指標があると市民の皆様にもっとわかりやすくなるのではないかと、そういう視点をこの重点テーマで議論するという考え方でよろしいのかどうか、お聞きします。

○福士会長 事務局はどういうお考えでしょうか。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 全くそのとおりでございます。

先ほど、今の計画の目標や基本方針を大きく変える必要がないと考えていると申し上げました。今の計画は、ごみ量の6つの目標を持っていますけれども、この目標を必ずしも継続するというわけではないので、その部分からは、新たな指標あるいは新たな目標としてこれを入れるべきというものが出てくるとお思いますので、事務局の認識としては、今の石井委員のお話と全く同じです。

○福士会長 今の2Rの発生抑制と、そこから出たものを資源化する後に、循環型社会ということで、どうしてもリサイクルできないものは適正処理をすることになっています。ですから、それを議論から外すということではなくて、必要なときには施設に関する適正処理のあり方ということも議論できるとお思います。

また、話の中でいろいろと出てきましたけれども、例えば、熱回収、エネルギーの問題についても、札幌市は原子力に依存しない社会ということをおっしゃられていますので、それに寄与するような施設における効率的な発電ということも議論の対象になってくると思います。

それから、指標の点についても、3回の議論ということですので、あらかじめこういうことが考えられるということなど、多めに資料を出しておいていただくと議論がしやすいという気はしております。

ほかに何かございませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○福士会長 事務局は、この前の議論を踏まえてうまくまとめていただいたと感じております。ごみを出さない取組の2Rと、ごみが出た後に資源化するという2つに分けてグループを構成するというので、これを中心にいろいろな問題を議論していただく形でよろしいでしょうか。

○石井委員 基本的にはこれでよろしいですが、例えば検討項目などでわからない点があります。

これから、皆さんはどちらかのグループに入られるわけですね。そのときに、具体的にどういうことを議論するのかということはおもう少し詰めた方がいいと思うので、あえて僕の方からわからない点を幾つか質問して、皆さんがそれぞれ自覚を持っていただくのが大

事かと思えます。

例えば、検討項目の例でリサイクルの見える化とかりサイクル品の購入推進というのは、具体的にどういう検討を想定されてここに記載されているのでしょうか。

○事務局（高橋企画係長） 私の方からご説明させていただきます。

まず、リサイクル品の購入推進についてですけれども、今、世の中では、紙のリサイクル品など、様々なリサイクル品が販売されているかと思いますが、そのリサイクル品が実際にどこまで使われているのか。せっかく作っても、買って使用していかないとリサイクル品はなかなか伸びていかないだろうということがあります。

今、札幌市役所の庁舎内では、グリーン購入を推進しようという取組はしているのですが、そういうものをほかの企業の皆様とか、市民の皆様などにも広めていけたらという観点で考えていたところ です。

また、リサイクルの見える化というの、リサイクルについて、いろいろな整備は進んでいると思うのですが、実際にリサイクルに出したものがどういうふうになっているのかということは、皆様はなかなかイメージがつかないと思います。

例えば、古着があります。これはリユースになるのかもかもしれませんが、回収された古着が最終的にどうなっているのか。例えば、外国に持って行ってちゃんと使われているのか、もしくは、ウエスといいますか、雑巾のようになって使われているのか、そういう観点がわかると、より人のためになっているということでリサイクルが進んでいくのではないかと思います。そういう取組を皆様にお示ししていくことも大切ではないかと考え、挙げた次第です。

○福士会長 ほかにいかがでしょうか。

○河崎委員 本来、部会で検討すべき事項かと思いましたがけれども、せっかくの機会という石井委員の意見もありましたので、お聞きしたいと思います。

先ほどのコストの問題に関係するのですが、今、ごみ処理手数料ということで体系化されて、市民の理解を得て順調にやっていると 思います。これは、部会で検討を進める中で、現在のごみ処理手数料の体系にまで影響を及ぼすくらい深く掘り下げて議論をするおつもりなのか、あるいは、大きな枠組みは変えないという方針で、それには全く触れないで進むのか、その辺のお考えがあれば教えていただきたい と思います。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 現在のところ、次の計画で、そこまで深く議論をするとか、それが必要だという状況にあるとは考えていません。そういう意味では、現計画を踏襲するという中身に現在のごみ手数料制度は入っております。ですから、次の計画をスタートするときに、そこを大きく変えるという考えはありません。

○河崎委員 わかりました。実際に資源化するに当たっていろいろなコストが必要になるけれども、それとの見合いは、実施の過程でいろいろな効率性や費用対効果を考えながらやっていくということで、手数料の分野まで踏み込む考えはないということですね。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） はい。

○河崎委員 わかりました。ありがとうございました。

○福士会長 この前、石井委員から出ていましたけれども、札幌市のごみ処理費は、収集が全体でトン当たり2万円、処理でトン当たり2万円、合計4万円をかけて処理していると。ただ、びん・缶・ペットボトルの処理をするにはトン当たり7万円ということですよ。恐らく、今まではそういうことをあまり意識せずに議論をしてきたと思いますので、そういうことも少し意識して議論をしてもいいのかなという気がしています。

また、手数料の問題については、明らかに今はうまくいっていると思うのですが、その手数料の額が失敗だったという評価があれば、改定するということはあり得ると思います。ただ、私自身はそう思っていないのですが、そういう問題提起はあり得ると思っています。

ほかにいかがでしょうか。

○遊佐委員 勉強不足で申しわけありません。

2Rの検討項目で、超高齢社会の対応ということで、生前整理とか遺品整理による家具や食器類とあります。これが成功すれば非常に素晴らしいと思うのですが、この事例はあるのでしょうか。

それから、日本人というのは、心情の関係でこういうものを出しづらいというところがあると思います。外国ですと、家具を代々使っていくということがあるのですが、これをどういう形で進めていくのか、今の時点でアイデア的なものがあれば教えていただきたいと思っています。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 札幌市として、現時点でアイデアを持っているということではなく、よく言われるように、これからまさに超高齢社会になって、必ずしも生前整理、遺品整理に限らず、家のものを整理したときに、まだ使える家具や食器類が出るとは思いますが、それを単にごみとして捨ててしまうのではなく、リユースなどが必要になるだろうということです。まさに、それへの対応としてどういう方法があるかということも議論していただければと思っています。

札幌市では、現在、大型ごみの中で、まだ使えるタンスなどは、リサイクルプラザなどで安価で販売するという取組をしております。

○福士会長 ほかにいかがでしょうか。

○納谷委員 知識不足で大変恐縮ですが、リサイクル品をどこで出して、市民がそれを知ることができる機会というのはあるのでしょうか。

学生の場合は、今、スマホの普及で、古着であれば携帯のアプリで自分で出品して知らない人と売買をするということをしています。大型の家具とか小型家電をどこで処理するのかということは、全く周知がなくて、一般市民には余り情報が入ってこないと思います。大学生なら、自分で買うこともないですし、親が買ってくれたものを使って、親が勝手に処理していると思っているので、ますます遠い話になっていきます。

どこに行ったらそういう場所があるのか、どうしたらいいのかが全然わからないので、

札幌市がどういうふうに行っているのかということを知っていただけたら、若い人たちはもっと率先してやっていくのかなと思いました。

○福士会長 現状では、大学生などの若い人たちに対して、どういう形で広報することになっているのでしょうか。

○事務局（高橋企画係長） 私のわかっている範囲でお答えします。

前回の会議でもお配りさせていただいたのですけれども、ごみの分別などに関する普及啓発のチラシを学校に置かせていただいたり、一部、可能なところでは新入生の方などに説明会などをさせていただいたりしているということを知っています。そういう部分を含めて、逆に、今の若い方がどういうところで情報を得られているのかということもお聞きしたいと思います。何回かお話のテーマとして出していましたけれども、どうしたら若い方たちにごみのことなどに関心を持っていただけるか、そういうご意見もお聞きしながら普及啓発を進めていければと思っています。

○福士会長 そうですね。普及啓発については、どうしたら大学生にうまく伝わるかというところで、ぜひいいアイデアがあればと思います。

○石井委員 私は北海道大学ですけれども、大学生が大変なご迷惑をおかけしていると思います。あと、最近は留学生もいます。

僕は、英語のコースを持っていて、留学生に対しては、札幌市のごみ処理はみんな分別をやっているという説明を初めにします。そういった学生に対する講義があってもいいと思うのですけれども、札幌市でやれることとしては、例えば、下宿するときには必ず不動産屋に行きますね。多分、各マンションに入居したら、ここはこうやってごみを出しますというごみカレンダーなどを配付してくれているのですけれども、学生はそれを余り見ていないのでしょうか。ですから、不動産屋に協力していただいて、この部屋に入居したら、ごみの出し方はこうですと、契約書類と一緒にごみの分別表を配ってもらう。不動産屋でそれを行っていただくと、効果がすごく高いのではないかと、思いました。

○福士会長 事業者の方にも普及啓発に協力してもらおうといいですね。

ほかにはいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○福士会長 それでは、この2つのテーマということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○福士会長 それでは、そのようにさせていただきます。

次期計画における重点テーマについては2Rと資源化の2つとして、9月以降のグループ会議での検討のテーマとさせていただきたいと思います。

続いて、次回以降のグループ会議におけるグループ分け等について審議を行いたいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 今、資料をお配りしますので、少々お待ちください

い。

[各委員に資料を配付]

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 資料が行き届いたようですので、その資料をご覧いただきながら、グループ会議の進め方とグループ会議の委員の構成について、あくまでも案でございますけれども、説明をしたいと思えます。

2つの重点テーマは、ただいま2Rと資源化と決定したところでございます。この2つのテーマで、委員の皆様をそれぞれのグループに分けまして、9月から11月の3か月間で集中的に議論をしていただくこととなります。

1番目のスケジュール案ですが、9月の第1回のグループ会議では、札幌市における現状と取組状況、ほかの都市の事例など、それぞれのテーマに関連する情報を提供し、今日、会長からも材料になるいろいろなものを手広く資料として用意してほしいというお話もありましたので、できるだけそういう形で用意をさせていただいて、今後の施策の方向性等について意見交換をしていただきたいと思います。

そして、第2回目は10月になると思いますが、第1回で出た意見を整理した上で、取組による効果や課題、問題点等について議論をしていただいて、グループ会議としての方向性を見出していきたいと思えます。

11月の第3回目のグループ会議では、会議のまとめを行っていただきます。取り組むべき内容等について総括をしていただいて、予定では、来年1月に再開することになる第6回本会議で報告する内容を固めていただきます。3回ですから本当に駆け足になってしまうかもしれませんが、大ざっぱなイメージとしては、今説明したような進め方で3回のグループ会議を行うことを考えております。

次に、2番目のグループ会議の委員構成についてです。

グループ分けにつきましては、白紙の状態からこの場で決めていくやり方もあるのですが、それはなかなか難しいと考えまして、皆様がそれぞれ所属している団体やこれまでの意見等を踏まえまして、本当に勝手ながら、事務局から一旦の案を提示させていただきました。

2Rグループにつきましては、桑原副会長、赤城委員、河崎委員、木澤委員、草野委員、永井委員の6名です。資源化グループにつきましては、石井委員、越智委員、納谷委員、武藤委員、山本委員、遊佐委員の6名と分けさせていただきました。

部会長につきましては、2Rグループは桑原副会長に、資源化グループは石井委員をお願いしたいと考えております。

なお、福士会長につきましては、いずれかのグループに属するのではなくて、どちらのグループにも総括的な立場からオブザーバーとして可能な範囲で出席していただきたいと考えております。

資料の説明は以上ですけれども、所属するグループにつきましては、お示ししました事務局案とは違うグループに移りたいという委員がいらっしゃいましたら、遠慮なくお申し出

いただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○福士会長 どうもありがとうございました。

こういう形で3回のグループ会議を行って、3回目にグループ会議のまとめを行います。

今、事務局案として、2Rグループに入った方、資源化グループに入った方というふうにグループが明らかになりましたので、ここで、どういう形で議論をするのかということも含めてご意見、ご質問があればお願いしたいと思います。

特に議論の内容や、こういう資料があったら議論がしやすいのではないかとということも含めて、ご意見、ご質問があればいただきたいと思います。

(「なし」と発言する者あり)

○福士会長 それでは、グループ会議の進め方とグループ分けについては、資料のとおりでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○福士会長 では、そのようにさせていただきたいと思います。

ご協力をいただきありがとうございました。本日の審議はここまでとしまして、次回のグループ会議の日程について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局(山岡循環型社会推進課長) どうもありがとうございました。

お手元にグループ会議の日程調整票の資料も配付しております。それについては、この後、高橋から説明いたしますけれども、今年度に入りましてから、本会議は5月、6月、今日の7月と3回にわたり月1回のペースで開催させていただきました。本会議は、これで一旦お休みになります。8月は夏休みとなりまして、9月からは、今日決めていただきました2つのグループに分かれてのグループ会議に無事に進むことができそうです。皆様にお礼を申し上げたいと思います。9月以降のグループ会議も引き続きよろしくお願い申し上げます。私からはお礼の言葉とさせていただきます。

この後は、高橋から事務的なお話をさせていただきます。

○事務局(高橋企画係長) 皆様、本日はご審議をいただきまして、ありがとうございました。

山岡からもありましたが、お手元に次回のグループ会議の日程票をお配りしております。

もしこの場でご記載いただける方がいらっしゃいましたら、ご記載いただいた後、お帰りの際に、事務局職員にお渡しいただければと思います。もしご予定がわからないという方は、後ほどメールをさせていただきますので、その後のご返信をお願いしたいと思います。

また、繰り返しになりますけれども、グループ会議の時期としましては、9月中旬、10月下旬、11月下旬の3回を考えております。今回で全ての日程を決めてしまいたいと思っておりますので、その旨でご協力をよろしくお願いいたします。

なお、皆様からご予定が出ましたら、早い段階で詳しい時間、場所などにつきましてご連絡させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○福士会長 どうもありがとうございました。

ただいまの説明に対して、何かご質問はありますか。

○河崎委員 この日程については、いつごろまでに出せばいいのですか。

○事務局（高橋企画係長） 今が難しければ、後ほどメールをお送りして、来週いっぱいくらいまでにお願ひできればと思います。

○河崎委員 私は、9月はいいのですが、10月、11月は流動的なのです。

○事務局（高橋企画係長） そのように、皆様はお忙しいと思いますので、早く日にちを決めさせていただければと思っております。

○福士会長 ほかにご質問などはおありでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○福士会長 それでは、以上のような形でよろしいでしょうか

（「異議なし」と発言する者あり）

### 3. 閉 会

○福士会長 それでは、第8期札幌市廃棄物減量等推進審議会の第5回本会議を終了いたします。

本日は、お忙しい中、どうもありがとうございました。

以 上